

都建設局 入札契約の取り組み方針

設計	
プロポーザル方式の拡大	一次審査項目の見直しなど、事務手続きの簡素化検討 概略設計、予備設計(基本設計)などに全面採用
低見積もり額への対応	見積内訳書の確認など 過度なものについては、実施設計を特命随契しない
測量および地質調査	
総合評価方式の導入検討	2010年5月から全庁的に委託分野の成績評定を実施。蓄積図りつつ導入も
低見積もり額への対応	見積内訳書の確認など
工事	
技術力評価型の積極採用	技術課題の抽出に、指導技術者の助言を活用 WTO案件に活用できる新類型の導入を検討
総合評価方式の改善	技術力評価型における、施工計画評価点を細分化 施工能力審査型における評価項目に災害協定締結実績を追加
低入札対策	低入札価格調査制度の調査マニュアルの見直し検討 コスト調査(追跡調査)を実施

設計はプロポーザル拡大

東京都建設局は、2011年度の設計委託、測量および地質調査、工事に関する入札契約の取り組み方針をまとめた。公共工事における品質確保に向けて改革姿勢を鮮明にしている。設計委託ではプロポーザル方式の導入を拡大。測量や地質調査といった業務分野では総合評価方式の導入に向けて検討を進める。また、工事では低入札対策の検討や総合評価方式を積極的に活用するほか、総合評価方式の改善や新類型の導入検討などを盛り込んでいる。

取り組み方針は、▽工事▽設計▽測量および地質調査の3項目で構成している。基本スタンスとして建設局が同局事業を対象に独自に実施する。財務局との調整が必要なものなど、明確な実施時期などは不透明なものもあるが、いずれも11年度に実施または検討を進める方針だ。

また、一方で全項目に共通して低い見積額や低入札への対応を強化していく考えで、工事では低入札価格調査制度に係る調査マニュアルの見直しを検討

計していくほか、実態把握を目的に低入札案件のコスト調査(追跡調査)を実施するとしている。

総合評価を積極採用 WTOに新類型検討

項目別にみると、工事では大型工事を中心に総合評価方式の導入を拡大する方針。特に建築の予定価格2億円以上、土木1億5000万円以上、設備1億円以上の中規模工事に適用している技術力評価型を積極的に活用する。同時に、局内部で課題となっている技術課題の抽出に、同局が職員の技術継承を目的に実施している建設技術マイスター制度における指導技術者の助言を生かす仕組みを構築していく。あわせて施工計画で評価点に差がつきにくい点を解消するため、評価点を細分化するなどの改善策の検討も行う。

また本来、施工計画に重点を置くなど、大型工事の品質確保に有効な技術力評価型は、過去の工事成績評定など、外国企業の参加にそぐわない評価項目が入っていることでWTO(世界貿易機関)対象案件の趣旨に合致しない矛盾を抱えている。このため、同局では、技術力評価型をベースにしたWTO案

件でも活用できる新類型の導入検討にも着手する考えだ。

このほか、小規模工事を対象にしている施工能力審査型に災害協定締結実績等地域要件の評価項目を追加することなども盛り込んでいる。

低入札対策で実施設計の特命随契に釘刺す

一方、設計では4月からプロポーザル方式の導入拡大を進める。導入を促進するため一次審査の評価項目の見直しなど、事務手続きの簡素化に向けた検討に入る。また、概略設計や予備設計(基本設計)などの基本的な事項を決定する段階にある設計委託では、プロポーザル方式を全面的に採用する方針を示しているほか、基本設計段階での著しく低い見積額への対策として、必ずしも実施設計を特命随契契約としないことなども盛り込んだ。

測量や地質調査の分野では、10年5月から都が全庁的に委託分野の成績評定を実施していることを受けて、総合評価方式の適用を検討していく。また、低い見積額への対応として見積内訳書の提出を求めるなど、実態の把握に努めるとしている。

低見積もり、入札への対応強化

3/31

〒113-0033 東京都文京区本郷一丁目五番十七号ノ
三洋ビル三階三〇号
建設コンサルタンツ協同組合